

令和7年度 市長との対話集会（雲浜地区）議事要旨

日 時：令和7年10月8日（水） 19時00分～20時50分

場 所：雲浜コミュニティセンター

参加者：33名

テーマ：①新幹線と共に歩む小浜市の将来像（北陸新幹線をどう活かすか）

②自分が市長だったらしたいこと

1 参加者からの主な意見

(1) 子育て・教育環境の充実

- ・子育て世代向けの遊び場の誘致や居場所作りが必要（特に小学生以上の遊び場）
- ・小浜の豊かな水（治水、歴史）についての教育の充実。

(2) 地域活性化と人口減少対策

- ・若者が県外に出ても「帰りたい」と思えるような、誇りを持てるまちづくりが必要。
- ・企業誘致により移住者を増やし、市に税金や消費としてお金を落とす経済サイクルを作る。
- ・ふるさと納税をさらに充実させるべき。
- ・新幹線開業までの期間に、敦賀から小浜まで「来たい」と思えるようなまちづくりを考えるべき。

(3) 観光振興

- ・淡路島のように現代的な発展と伝統的な魅力を両立させ、小浜の伝統と文化をさらに高めるべき。
- ・サイクリングロード整備や海を生かした観光スポット充実など、アクティブな観光の推進。
- ・歴史上の人物（松木庄左衛門、京極高次など）の説明書きや看板設置、アピールできる建物の建設など、歴史を知ってもらう機会を増やすべき。
- ・鯖街道を通じて京都との文化交流を深めることが、北陸新幹線延伸に繋がるのではないか。
- ・新幹線効果による観光客増を想定し、既存の文化・芸術の発信を強化し観客誘致に繋げるべき。

(4) インフラ・地域課題

- ・融雪で地下水が吸い上げられ水量が減る問題がある。地下水のあり方を考えるべき。
- ・過去の若狭湾リゾート開発計画が新幹線誘致に変わった。新幹線誘致にかかる費用を考慮し、リゾートラインの再推進を検討することで、新幹線誘致も早まり、実用性も高まるのではないか。
- ・区長の役割や権限を強化すべき。若い世代が区長を担うためのあり方の検討が必要。
- ・新駅周辺は、病院、公共施設、商店などを集約し、コンパクトなまちづくりを長期的に進めるべき。

(5) 農業振興

- ・農業は基幹産業であり、農家が安心して生活できるような施策を行うべき。
- ・先端技術を取り入れた農業を推進し、米のブランド化を図るべき。

(6) 安心安全なまちづくり

- ・人が集まることによる治安悪化を懸念。子どもの安全確保、太平洋側の大地震発生時の生活難民による犯罪防止のため、防犯カメラの設置を充実させるべき。
- ・能登半島地震を踏まえ、地域防災計画を見直し、市民が混乱なく避難できる体制の確立が必要。
- ・若狭高校の避難場所活用、ヨウ素剤の事前配布などを検討。

(7) 行政サービス・広域連携

- ・名古屋市や明石市をモデルに、子育て支援の充実や税負担を減らす取組みを推進。

- ・文化会館が耐震化工事で利用できなくなる。高浜・おおい・若狭町との広域行政を推進し、将来的に文化施設の共有を検討するべき。今後、全ての市町で施設を新たに設けるのは財政的に困難。
- ・新幹線で京都まで19分となることを活かし、医療面での連携を強化すべき。小浜病院の医師不足や医療困難化に対応するため、京都からの医師招聘や、病気の診断・治療を連携して行うべき。

(8) 学術・研究機関の誘致

- ・「まちの駅」の一角に県立大学のキャンパスを設けるなど、学園都市を目指すべき。京都にある大学の分離キャンパスなどを呼び込めば、新幹線との連携も深まる。
- ・京都の地下水汚染や枯渇を懸念する新幹線反対意見が以前から存在したことを、小浜市が認識できていなかった。京都には堀場製作所、京セラ、ニデックなどの世界的な企業が多く、それらを小浜に誘致できれば良い。

2 市長からの主な回答

(1) 子育て・教育環境の充実

- ・遊び場不足は、新しい施設の建設よりも、既存施設（市民体育館など）を工夫して活用する方法を検討し、現場の声を聞きながら充実させていく。
- ・水に関する教育は、親世代への情報伝達にも繋がり、非常に良い取り組みである。

(2) 地域活性化と人口減少対策

- ・若者が帰ってこない問題はまちづくりで最も重要なポイントであり、働きたくなる、帰りたい、誇りに思える場所にするため、ブランド戦略を含めたまちづくりを推進する。
- ・若者が地元で働く未来を作るため企業誘致に注力する。京都本社の企業が小浜に進出している実績もあり、京都との連携を広げることで企業誘致の面でも重要性が増す。

(3) 観光振興

- ・新幹線開通後も都市的な変化だけでなく、小浜ならではの伝統・文化を大切にしていくことが重要。
- ・若狭湾サイクリルートのナショナルサイクリルート認定を目指し申請中である。小浜と琵琶湖（ビワイチ）を繋ぐサイクリングルートの構想も検討中。
- ・歴史関連の看板設置やストーリー性を持たせた情報発信の重要性を認識し、語り部の方々の意見も参考に、来訪者の興味関心に合わせたまちづくりを進める。
- ・文化庁の日本遺産フェアや京都市長との連携を通じて、文化的な繋がりを重視。「まるっと鯖街道」プロジェクト（自転車、車での周遊観光）を京都、若狭町、高島市と連携して推進中。

(4) インフラ・地域課題

- ・地下水については、パンフレットにまとめている。調査結果や地層、水量に関する情報を市民に伝える機会も今後検討する。
- ・鉄道の新規建設は難しいが、将来的な自動運転技術の進化（20～25年後）を考慮すると、既存の道路を活用した自動運転バスなどの新たな交通手段も選択肢になり得る。鉄道以外の乗り物も視野に入れたまちづくり計画を検討していく必要がある。
- ・区長のあり方、権限強化は重要な課題と認識。広報物の配布方法（デジタル化と高齢者への配慮）なども含め、将来を見据えた区長の役割を検討していく。
- ・コンパクトシティの考え方を理解でき、新駅周辺を人・物のハブとして活用する視点も重要。全てを集約する方法と、交通拠点として活用しつつ各地域住民の利便性を公共交通（デマンドバスなど）でカバーする方法の両面から検討が必要。

(5) 農業振興

- ・稼げる農業を目指し、若い世代がチャレンジできる環境を整備。獣害や水不足などの課題に対応し、先端技術の導入や県などと連携した技術者招聘も検討する。

(6) 安心安全なまちづくり

- ・住民の安全安心を守ることは最重要課題。防犯カメラ設置の必要性は、地域住民の安心安全を守る観点から認識しており、開発と住民の安心安全の両視点からまちづくりを進める。
- ・能登半島地震の経験を踏まえ、避難経路や避難場所（津波警報時の対応など）を見直し、避難計画を更新していく。市民と連携し、想定外の事態にも対応できるよう、防災計画を継続的にアップデートしていく。

(7) 行政サービス・広域連携

- ・企業版ふるさと納税の活用も行っている。企業メリットを活かし、寄附金を小浜市で活用できる制度であり、寄附を呼び込める魅力的な環境整備を進める。
- ・財政状況を考慮すると、新たな施設の建設は難しい。広域利用の考え方は重要であり、新駅周辺に、文化施設やスポーツ施設だけでなく、多様な機能を複合させた施設を検討する可能性もある。広域行政として、小浜市が持つ機能で近隣町の不足をカバーするなど連携していく考えは重要。
- ・新幹線や高速道路を活用し、小浜市でカバーできない医療を京都等の医療機関と広域連携し利用していく必要性を認識。

(8) 学術・研究機関の誘致

- ・京都の大学だけでなく、海外大学との連携や先端的な研究機関の誘致、大学のサテライトキャンパス設置による学園都市構想は非常に良いアイデアとして大学との連携を推進したい。